

→ 国際交流員パトリック・ルムラーの

ドイツを語るパトリック



Vol.7

結婚についての考え

食べ残されたお昼ご飯をタッパーに入れ、冷凍。もう一つのタッパーに愛を入れ、冷凍。駅で手を一所懸命振りながら、「さよならの涙」一滴を頑張って絞りこぼす二人は、数分前に「またすぐ会える」という言葉を交わした。その直後、彼は電車に乗り、すぐ携帯電話をいじりはじめた。これから4週間会えない。彼女は手帳を引きながら、下心を持ち、別々の都市に住んでいる二人の再会の予定を入れる。

それぞれのジェネレーションには、愛に対しての悩みがあった。愛していないのに親に「結婚しなさい」と言われ、つまり、若いうちに親が結婚の誓いをした時代もあった。その後、時代が変わり人々は自由になったが、多くのドイツの若者が、現在の自由さで溢れている社会に少しずつ困ってきた。

現在の若い人と比較すると、50年代ぐらいの人は、若いころに仕事や人生などの上で可能性が限られていたと言えるだろう。その理由の一つは若いうちの結婚である。それに対して、現在の若い人は、結婚せずにだらだらしながら付き合っているように見える。実は、それには意味深い理由がある。

高校生のときにアメリカに留学し、大学2年生の時にフランスで勉強した。卒業後、就職する前にスイスの大手金融機関で12か月間研修を受けた。25歳になる時点で数か国で生活したことがあり、少なくとも3か国語を話すことができ、グローバル化のおかげで目の前に現れたチャンスのすべてを掴もうとしている現在の若者。

こうしたグローバル化で現れたチャンスを利用する、若いドイツ人が優秀だと思うだろうが、上記のような経歴を持つドイツの若い人は少なくはない。チャンス豊富な社会の結果の一つは、できるだけ結婚のような最終的な決断をせずに、自分の将来がどんな方向に発展していても他人の人生が関わらないように自由を保ちたい若者だ。つまり、長期的に人生に影響をもたらすような決断がなかなかできず、その時そのときに自分の都合に合うような付き合いを求め、都合のいい方向に進む時代だ。恋愛と結婚の上だけでなく、仕事の上でも約束できない若いドイツ人だ。

多くの若者が遠距離恋愛も体験し、再会なしのお別れの体験を何回もしたことがある。つらいと思っても、遠距離恋愛が当たり前になってきたグローバルジェネレーションにとっては、メリットもある。自分のスケジュールに合わせた付き合い方ができ、仕事が生かせる。一緒に過ごした時間が比較的少なく、思い出になる場所が限られているため、都合が合わなくなってきたときに比較的簡単に別れ、自分の道に進んでいく。

もちろん他にも結婚しない理由がいくつかある。しかし、現代の若者の多くが可能性で溢れている世界で迷い、仕事上のチャンスを逃さないように長期的な決断をしないと見えるだろう。結局、とまどいながら生き続け、彼らが逃したのは別のものかもしれないのだ。

4週間が経った。長い電車の旅の末に彼を駅まで出迎えに来てくれる。予定通り、これから2日間を一緒に過ごす。それぞれの人生に、4週間の間にあったことができるだけ二人の思い出になるように思い出しながら、鮮明に語り合う。次の会える日まで、寂しくならないように圧縮した楽しさを一緒に過ごす2日に加え、思い出深い日々を過ごすことに必死だが、結局、待ち焦がれた気持ちで溢れている、愛が入っているタッパーのふたを開け、自分の都合に合わせた量だけを取り出し、この2日に加える若いドイツ人だ。

国際交流員 パトリックさんの

「波トリック」

第5回

「ドイツのクリスマス」
交流・講演・上映会

申し込み・問い合わせ先

下野市国際交流協会事務局
(生活安全課)
☎40-5555

●日時 12月19日(土) 午後6時～8時30分

●会場 石橋商工会館 アイリスホール

●内容

午後6時～ 交流会 ドイツの手作りクリスマスクッキーとグリューワインを
味わってみましょう。(ソフトドリンクも用意します)

午後7時～ 講演会 ドイツのクリスマスとグリム兄弟の物語を紹介します。

午後8時～ 上映会 ドイツの映画を上映します(グリム童話)。

●入場料 前売券 小学生500円 大人750円

(下野市国際交流協会の会員 小学生250円 大人500円)

※12月9日(水)から12月16日(水)まで生活安全課窓口にて
前売券を販売します。

当日券 小学生750円 大人1000円

●持ち物 マイカップ ●定員 100人